

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4070402096		
法人名	有限会社 山崎メディカルサービス		
事業所名	グループホーム 琴音		
所在地 (電話番号)	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴一丁目12番10号2F (電話)093-562-5750		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成21年3月7日

【情報提供票より】(平成21年2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤(専任13人 兼務 1人)	非常勤3人 常勤換算 14.3人

(2) 建物概要

建物形態	併設(単独)	新築(改築)
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	6 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 ~ 32,000 円	その他の経費(月額)	光熱費10,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年2月13日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健和会大手町病院 ・ 山崎リゾートクリニック ・ 小倉蒲生病院 ・ ふじおか歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

琴音は国道3号線沿いの6階建てビル2階の元病院を改築したグループホームである。ホーム正面の公園は利用者との散歩や草取りのコースで、桜並木の横を流れる川沿いには、大きな錦鯉が泳いでいて、いつまで見ても飽きない風景である。医療連携加算の訪問看護が始まり、本部の医療機関と連携し、ターミナルケアの指針を作成し、家族、かかりつけ医、看護師、職員が常に話し合い、利用者の状態を共有している。ホームの理念「利用者の尊厳を守り、家庭的な雰囲気、喜びや自信を見つけていく」を職員全員で実践できるように創意工夫をしている。また、自治会に加入し、同じビルの住民との交流を図り、地域に密着し、信頼されるホームとして、管理者、職員のチームワークで、介護サービスの質の向上を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は4件あったが2件は改善出来ている。今回は「地域密着型としての理念をつくる」「評価の意義と理解と活用」「市町村との積極的な連携」「職員の異動等による影響への配慮」「地域の方の協力を得て夜間を想定した避難訓練の実施と非常災害時の非常食、飲料水、毛布等の備蓄」等が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と計画作成担当者が協力して作成している。今後は管理者が職員に調査の意義を説明し、理解してもらい、職員一人ひとりが自己評価を分担して作り、全員で取りまとめ作成し、評価結果票を回覧し、参考にして改善に向けて努力することを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月毎に事務室で開催し、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者が参加し、ホームからは運営状況、行事、外部評価結果等を報告し、出席者からは災害対策、介護保険、家族からは運営に関する意見等が出て、貴重な意見交換会である。今後は会議がマンネリ化せず、ホーム運営に反映できる会議として成長していくことを期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情、要望、相談窓口を明示し、意見箱を玄関に設置して、家族の不安が解消できるような工夫をしているが、意見はほとんど出てこない。家族の意見が出にくい心情を理解して、家族会を設立し、家族同士で話す機会を設け、家族会の意見として、ホーム運営に関する意見等を、出せるような環境を整えていくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と職員は自治会に加入し、前の公園で草取りをしたり、近隣の方と散歩の途中で会話をしたりして、地域活動に参加できるように努力している。今後は家庭的で温かいホーム行事に、地域の方々を案内して、交流を図り、利用者が地域の一員として穏やかに、暮らせる工夫をしていくことが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の尊厳を守り、家庭的な雰囲気の中で、喜びや自信を見つけれられるようなホームを目指すという3項目の理念を作り、日々実践している。		地域密着型サービスとして、地域に愛され信頼されるホームを目指すという理念の追加が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付くところに掲示し、職員は理念を理解し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、管理者が町内会の組長を引き受けたり、近くの公園の草取りをするなど、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者や一部の職員で作成している。		評価の意義を職員に理解してもらい、自己評価を全員で作成し、改善に向けた活用が出来るように工夫することが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われている。会議は、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター、自治会、老人会の方がメンバーとなり、事業所の取り組みを報告したり、意見をもらうようになっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは、ホームの運営上の問題が浮上した時に、問い合わせや助言を求める関係である。		今後は、市の職員の研修場所としてホームを提供したり、介護相談など、市との協働事業を進めていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1回のミーティング時に全職員で話し合ったり、権利擁護に関する研修を受講し、ホーム内での伝達講習も行き、職員全員の権利擁護に対する意識を高めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「琴音通信」を毎月発行し、利用者一人ひとりの暮らしぶりや金銭管理を、郵送や口頭で報告し、家族の安心に繋げている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱にはなかなか意見は入らないが、職員が家族とコミュニケーションを図り、出来るだけ意見が言いやすい雰囲気作りをしている。		家族会の早急な設立を望みます。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者へのダメージを考え、職員の異動が少なくなるよう、職場環境や条件面など配慮している。		昨年は職員の異動が多く、利用者や家族に不安を与えたが、職員の異動もようやく落ち着き、利用者との関係も少しずつ馴染みの関係になってきている。
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用にあたっては、年齢、性別などで区別しないようにしている。また、事業所内で働く職員についてもそれぞれの能力を發揮できるよう配慮をしている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	「利用者は人生の先輩である」と考え、利用者の尊厳を守りながら、ケアを実践している。また、法人内研修において人権研修を実施し職員に理解してもらい啓発活動に繋げている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加は少ないが、受講者は報告書を作成し、内部研修を通じて研修内容を共有化している。また、同系列のホーム間で相互訪問を行い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、月に一度情報交換や意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。今後は、職員の相互訪問も検討中である。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は、希望があれば行い、利用者と家族が、安心、納得した上で入居して頂いている。入居後は職員がさりげなく見守り、馴染みの関係を少しずつつくっていくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を、人生の先輩として学ぶことも多く、尊厳の気持ちを持って接し、心配したり心配されたりする関係を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩、買い物、食事など、一人ひとりの思いや希望を、日々の関わりの中で出来るだけ汲み取る努力をしている。意向の表出の難しい利用者に対しては、家族からの聞き取りや過去の履歴から読み取り、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回のミーティングで、職員が意見を出し合い利用者、家族の要望を聞きながら介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直しをしている。利用者に変化が生じた場合は速やかに対応し、家族の承諾を得て、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への付き添い、買い物、ドライブなど可能な限り、利用者や家族の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する、かかりつけ医への受診の支援を行っている。法人本部が医療法人であるため24時間体制を整え、また、訪問看護との連携により利用者が安心して暮らし続けることの出来る環境を整えている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を作成している。利用者、家族、医師など全員で方針を共有している。出来る範囲内で看取りを目指しているが、どこまで看ることができるのか検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	元気の良い職員の声かけが時々大きくなるが、利用者のプライバシーを守り、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の決まりの中で、利用者一人ひとりの意向を尊重し、個別のゲームや生活リハビリを取り入れながら自分のペースで暮らせるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなど利用者一人ひとりの力を活かしながら行い、利用者と職員が同じテーブルについて楽しみながら食事をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴となっているが、なるべく一人ひとりの希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合わせて、掃除、料理(ゴボウの皮むきなど)洗い物など役割分担をし、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。また、毎月の行事(花見など)や、地域の行事への参加など、気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩しながらジュースを買いに出かけたり、目の前に流れる板櫃川の桜並木沿いの道や、ホーム正面の公園を散歩したり、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の動きに気を配り、一人ひとりのその日の気分をキャッチすることで、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年に2回行っている。		地域住民の協力を得て夜間を想定した災害避難訓練を実施し、災害に備えた、非常食、飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの一日の食事や水分の摂取量を記録し、職員は、利用者一人ひとりの状態を把握し、健康管理の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院を改装したホームだが、季節感を取り入れ絵や写真を飾って温かみのある共用空間作りをしている。昼食の時間が近づくと、オープンキッチンからはキャベツを刻む音が聞こえ、良い香りが漂ってきて、家庭的な雰囲気である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族に馴染みの物を持ってきてもらい、居心地よく過ごせるよう配慮している。また、利用者一人ひとりの身体の状態に応じてベッドの手摺りや部屋のコールなど安心して過ごせるように配慮している。		